

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第25週 (6/18-6/24) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	25週	24週	23週	22週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段: 患者数
下段: 定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	6/18-6/24	6/11-6/17	6/4-6/10	5/28-6/3	6/11-6/17
			25週	24週	23週	22週	24週
小児科	RSウイルス感染症	↓	5 0.28	7 0.39	3 0.17	1 0.06	26 0.19
	咽頭結膜熱		9 0.50	8 0.44	10 0.56	3 0.17	139 1.04
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	64 3.56	60 3.33	61 3.39	74 4.11	426 3.18
	感染性胃腸炎		124 6.89	130 7.22	116 6.44	147 8.17	728 5.43
	水痘		9 0.50	5 0.28	11 0.61	5 0.28	66 0.49
	手足口病	○	14 0.78	2 0.11	2 0.11	3 0.17	36 0.27
	伝染性紅斑		5 0.28	1 0.06	1 0.06	1 0.06	27 0.20
	突発性発しん		19 1.06	9 0.50	19 1.06	9 0.50	60 0.45
	ヘルパンギーナ		4 0.22	2 0.11	3 0.17	4 0.22	51 0.38
	流行性耳下腺炎		3 0.17	2 0.11	2 0.11	2 0.11	18 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	17 0.61	1 0.04	5 0.18	27 0.13
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	5 1.00	3 0.60	4 0.80	23 0.66
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	病原体の分離同定等	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体の分離同定等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
A型肝炎	男性	20歳代	血清IgM抗体の検出	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
破傷風	男性	70歳代	臨床決定	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出等	-	-	-	-

・第25週は、結核2件(92)、A型肝炎1件(8)、急性脳炎1件(6)、破傷風1件(1)、百日咳8件(42)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

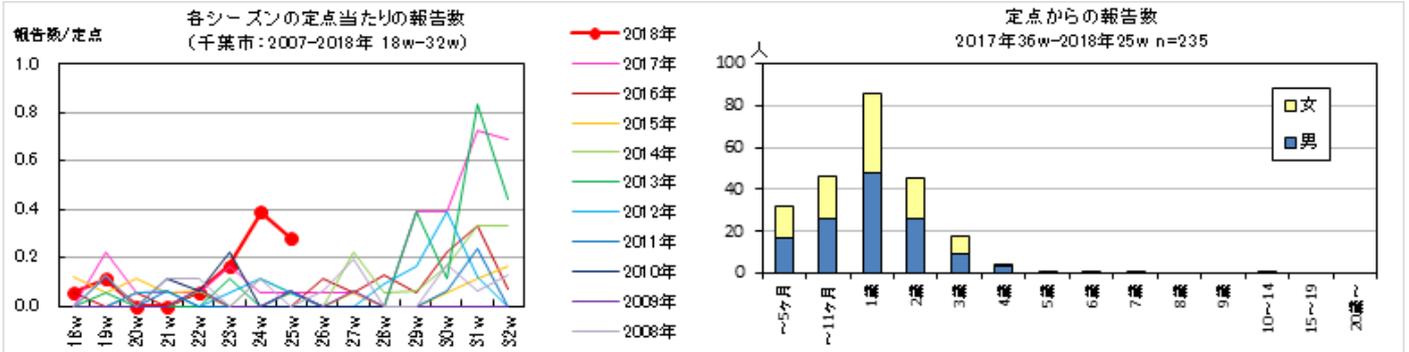
定点当たり報告数 第25週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より減少し0.28となったが、過去10年の同時期と比べると最多のまま。
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し3.56となった。過去10年の同時期と比べると多め。
<手足口病> 前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

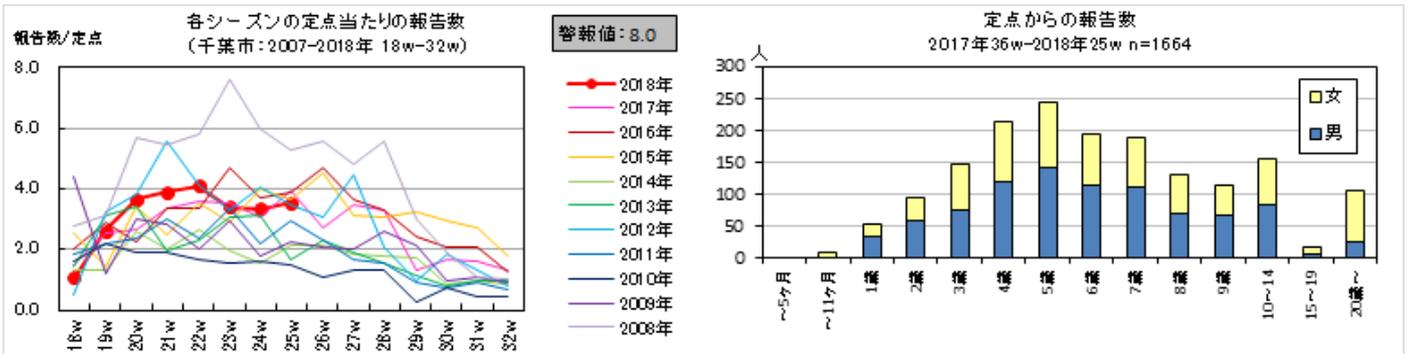
<RSウイルス感染症>

全国レベルは第13週から過去10年の同時期と比べて最多の状態と推移しており、第24週も同様となっています。都道府県別では沖縄県、新潟県、宮城県の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第25週は前週より減少し0.28となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区(1.25/定点)のみから報告があり、同区の0-5か月齢で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第36週から2018年第25週までの累積報告数(n=235)によると、性別では男性が55.3%(130名)、女性が44.7%(105名)で、年齢階級別では1歳(36.6%:86名)、6-11か月(19.6%:46名)、2歳(19.1%:45名)の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第24週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では鳥取県、埼玉県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第25週は前週より増加し3.56となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(8.75/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最も多く、一年代あたりでは4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2017年第35週から2018年第25週までの累積報告数(n=1664)によると、性別では男性が54.5%(907名)、女性が45.5%(757名)で、年齢階級別では5歳(14.7%:244名)、4歳(12.9%:215名)、6歳(11.7%:194名)の順で多くなっています。



<手足口病>

全国レベルの第24週は、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では大分県、宮崎県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第25週は前週より多めに増加し0.78となりました。過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、中央区(2.33/定点)で最も多く、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第25週までの累積報告数(n=43)によると、性別では男性が41.9%(18名)、女性が58.1%(25名)で、年齢階級別では1歳(32.6%:14名)、2歳(30.2%:13名)、3歳(11.6%:5名)の順で多くなっています。

